

平成元年度 和歌山県名匠

せい かん し
【製竿師】

やま うえ ふみ お
山 上 文 雄
(竿銘 山彦)

【現住所】橋本市

【生 年】大正10年

業績及び経歴

昭和12年橋本尋常高等小学校を卒業後、橋本地方にヘラ竿づくりを伝えた源竿師(山田岩義氏・昭和49年度和歌山県名匠)に弟子入りした。

昭和15年に独立自営。以来「山彦」の竿銘で、独創的な技法により機能性と芸術性に富んだ数々の名品を生み出した。

握りの部分に真竹の表面を極細に割って張りつける「竹張り握り」の技術や絹糸と漆を使った独自の加飾法により「山彦塗り」の名で親しまれている「透かし塗り」等がそれである。又、独特な「火入れ」技法を用い、山彦の竿は狂いが生じないといわれている。

昭和37年には天皇陛下にヘラ竿を献上している。

昭和25年から31年まで紀州製竿組合長を務めた。

昭和51年には和歌山県技能賞を、昭和63年には卓越した技能者(現代の名工)の労働大臣表彰をそれぞれ受賞している。